

静岡大学人文社会科学研究所（修士課程）修士論文審査基準

平成22年2月16日	学務委員会	承認
平成22年2月18日	研究科委員会	承認
平成22年7月6日	学務委員会	改正
平成22年7月8日	研究科委員会	改正
平成27年4月16日	研究科教授会	改正
令和2年2月20日	学務委員会	改正
令和2年3月3日	研究科教授会	改正
令和3年2月15日	研究科教授会	改正

I 共通事項

- 1 論文題目は、所定の期日までに提出し、指導教員の確認を得る。
- 2 修士論文は、主査1人、副査2人以上、計3人以上により審査する。
- 3 評価は、以下に各専攻があげる5項目全てがC評価以上であることをもって合格とする。
 - (1) A：優れている。
 - (2) B：良好である。
 - (3) C：一定の水準に達している。
 - (4) D：水準に達していない。
- 4 修士論文の要旨集を作成し、広く公開する。

II 審査基準

1 臨床人間科学専攻

次の5つの基準により、学位論文等として適格であるかどうか審査を行う。

審査委員には、論文提出者の研究分野と隣接あるいは異なる分野を専門とする審査委員を含めるよう配慮し、多様な立場から適切な研究がなされているかどうかを判断するものとする。なお、論文提出後の最終試験（口頭試問）については、適正かつ公正な審査を堅持するため広く公開して実施するものとするが、当該試験における質疑応答の結果も参考とし、最終的な合否判断を行う。

(1) 論文テーマについて

論文テーマが、当該領域の専門的知識や方法をふまえた学術的意義、もしくは現代社会が抱える問題や職業人としての課題をふまえた実践的・社会的意義をそなえているか。

(2) 先行研究や関連研究について

論文テーマにかかわる専門領域の先行研究や幅広い関連研究が的確に言及され、正確に理解され、論の展開のために有効に用いられているか。

(3) 研究方法について

研究方法の正確かつ体系的理解をふまえ、設定したテーマに相応しい研究方法が採用され、文献・調査・実験・事例などの情報収集の方法とそれらに基づいた分析、もしくは論証が適切になされているか。

(4) 論文の記述と構成について

引用、注、図表、文献レファレンスなどの処理が適切になされ、問題提起から結論に至るまでの

論述と構成が一貫性と論理性を備え、明解な表現と伝達方法が用いられているか。

(5) 論文の独自の価値（オリジナリティ）について

適切な倫理的配慮、異なる見解の尊重、研究成果の限界をふまえつつ、問題設定、研究対象、分析方法、研究知見などに何らかの独自の価値や意義が見出されるか。

2 比較地域文化専攻

次の5つの基準により、学位論文等として適格であるかどうか審査を行う。

(1) 論文のテーマについて

当該領域における研究蓄積を考慮した上で、地域社会もしくは国際社会に立脚した広い視野から、社会的意義や学術的意義をふまえた設定になっているか。

(2) 先行研究や関連研究について

研究をすすめるうえで必要な先行研究や関連研究を、当該領域における適切な問題意識をもって総合的に把握・整理し、自己の議論の展開のために有効に用いているか。

(3) 研究方法について

収集したデータや資料にオリジナリティがあり、修得した専門的なスキルを応用して、対象作品や資料の細部の読みや分析を緻密に重ね合わせているか。

(4) 論述について

引用、注、図表、文献レファレンスなどの処理が適切になされ、問題提起から結論に至るまでの論述と構成が一貫して論理的かつ明晰に表現されているか。

(5) 論文の独自の価値について

収集したデータや資料、対象作品が適切に分析・実証されるとともに、設定されたテーマに対して、異なる見解を尊重しつつ、独自の視点から思考がなされているか。

3 経済専攻

次の5つの基準により、学位論文等として適格であるかどうか審査を行う。

(1) 論文テーマについて

論文のテーマが、当該領域の専門的な知識や方法をふまえた学術的意義、および/あるいは現代社会が抱える問題や職業人としての課題をふまえた社会的意義に基づき、設定されているか。

(2) 先行研究や関連研究に関する理解について

論文のテーマにかかわる問題領域において、先行研究や関連研究についての的確にサーベイされ、自らの問題意識に基づいて理解されているか。

(3) 研究方法について

研究方法の正確かつ体系的理解をふまえ、設定したテーマの研究に際して、相応しい研究方法、調査・実験方法、あるいは論証方法が用いられており、それに基づき、具体的な分析・考察がおこなわれているか。

(4) 論文の記述について

引用、注、図表、文献レファレンスなどの処理、結論に至るまでの論理的な章立て、結論までの論理的な記述が、適正かつ十分におこなわれているか。

(5) 論文の独自の価値（オリジナリティ）について

テーマ、問題設定、分析方法、ないし結論等において、何らかの独自の価値や意義が見出されるか。

静岡大学人文社会科学研究所（修士課程）特定の課題についての研究の成果審査基準

令和3年2月15日 研究科教授会 承認

I 共通事項

- 1 特定の課題についての研究の成果の報告の方法と報告書の題目は、所定の期日までに提出し、指導教員の確認を得る。
- 2 特定の課題についての研究の成果は、主査1人、副査2人以上、計3人以上により審査する。
- 3 評価は、以下に各専攻があげる5項目全てがC評価以上であることをもって合格とする。
 - (1) A：優れている。
 - (2) B：良好である。
 - (3) C：一定の水準に達している。
 - (4) D：水準に達していない。
- 4 特定の課題についての研究の成果は、課題に応じた適切な方法で広く公開する。

II 審査基準

1 臨床人間科学専攻

次の5つの基準により、学位論文等として適格であるかどうか審査を行う。

審査委員には、特定の課題についての研究の成果報告書提出者の研究分野と隣接あるいは異なる分野を専門とする審査委員を含めるよう配慮し、多様な立場から適切な研究がなされているかどうかを判断するものとする。なお、特定の課題についての研究の成果報告書提出後の最終試験（口頭試験）については、適正かつ公正な審査を堅持するため広く公開して実施するものとするが、当該試験における質疑応答の結果も参考とし、最終的な合否判断を行う。

(1) 特定の課題についての研究の研究課題について

研究課題が、当該領域の専門的知識や方法をふまえた学術的意義、もしくは現代社会が抱える問題や職業人としての課題をふまえた実践的・社会的意義をそなえているか。

(2) 先行研究や関連研究について

研究課題にかかわる専門領域の先行研究や幅広い関連研究が的確に言及され、正確に理解され、論の展開のために有効に用いられているか。※本項にいう先行研究や関連研究には実践研究を含む。

(3) 研究方法について

研究方法の正確かつ体系的理解をふまえ、設定した研究課題に相応しい研究方法が採用され、研究課題に関連する既存の実践事例や歴史、法的・制度的背景、現状と課題、当該研究課題において展開された実践事例などの情報収集の方法とそれらに基づいた分析、もしくは論証が適切になされているか。

(4) 特定の課題についての研究の成果の報告の方法と報告書の記述と構成について

成果の報告の方法が、研究課題に相応しい方法を採用しているか、また、報告書の記述や構成において、引用、注、図表、文献レファレンスなどの処理が適切になされ、問題提起から結論に至るまでの論述と構成が一貫性と論理性を備え、明解な表現と伝達方法が用いられているか。

(5) 研究課題の独自の価値（オリジナリティ）について

適切な倫理的配慮、異なる見解の尊重、研究成果の限界をふまえつつ、問題設定、対象、方法、成果などに、何らかの独自の価値や意義が見出されるか。

2 比較地域文化専攻

次の5つの基準により、学位論文等として適格であるかどうか審査を行う。

(1) 特定の課題の研究の研究課題について

当該領域における研究蓄積を考慮した上で、地域社会もしくは国際社会に立脚した広い視野から、社会的意義や学術的意義をふまえた設定になっているか。

(2) 先行研究や関連研究について

研究をすすめるうえで必要な先行研究や関連研究を、当該領域における適切な問題意識をもって総合的に把握・整理し、自己の議論の展開のために有効に用いているか。 ※本項にいう先行研究や関連研究には実践研究を含む。

(3) 研究方法について

研究課題に関わるデータや資料、対象作品の収集、および関連する実践事例などについての情報収集が十分に行われ、修得した専門的なスキルを応用して、それらが適切に分析、もしくは論証されているか。

(4) 特定の課題の研究成果報告書の論述について

成果の報告の方法が、研究課題に相応しい方法を採用しているか、また、報告書の記述や構成において、引用、注、図表、文献レファレンスなどの処理が適切になされ、問題提起から結論に至るまでの論述と構成が一貫して論理的かつ明晰に表現されているか。

(5) 特定の課題の研究の独自の価値について

収集したデータや資料、対象作品、および実践事例の情報が適切に分析・検証されるとともに、設定された研究課題に対して、異なる見解を尊重しつつ、独自の視点から思考がなされているか。

3 経済専攻

次の5つの基準により、学位論文等として適格であるかどうか審査を行う。

(1) 論文テーマについて

論文のテーマが、当該領域の専門的な知識や方法をふまえた学術的意義、および/あるいは現代社会が抱える問題や職業人としての課題をふまえた社会的意義に基づき、設定されているか。

(2) 先行研究や関連研究に関する理解について

論文のテーマにかかわる問題領域において、先行研究や関連研究についての的確にサーベイされ、自らの問題意識に基づいて理解されているか。

(3) 研究方法について

研究方法の正確かつ体系的理解をふまえ、設定したテーマの研究に際して、相応しい研究方法、調査・実験方法、あるいは論証方法が用いられており、それに基づき、具体的な分析・考察がおこなわれているか。

(4) 論文の記述について

引用、注、図表、文献レファレンスなどの処理、結論に至るまでの論理的な章立て、結論までの論理的な記述が、適正かつ十分におこなわれているか。

(5) 論文の独自の価値（オリジナリティ）について

テーマ、問題設定、分析方法、ないし結論等において、何らかの独自の価値や意義が見出されるか。